



発行：東京都立大学附属高等学校同窓会
〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2
発行人：内野滋雄
編集：同窓会報編集委員会

母校閉校に当たっての同窓会の活動について

同窓会理事長 内野滋雄（1期）

平成23年3月末日をもって、東京都立大学附属高等学校が閉校となることは既にお知らせし、記念碑の建立のための募金もお願いいたしました。

その後、詳細が決まってきましたので、それらをご報告し、合わせて再びお願いを申し上げます。

また、碑文は記念碑に合わせて石造りのもので制作を依頼しております。設置につきましては、閉校式が平成23年3月5日（土）と決まりましたので、その日に除幕式を行えるよう、その年の2月下旬に設置する予定で進行しております。

記念碑建立までの日程
二科会の重鎮、野上公平氏作の記念碑「繁栄」は既に完成し、新潟県六日町に保管してあります。



記念碑：野上公平作「繁栄」

再度募金のお願い

前述の記念碑は、碑文、移送、設置費用など全てを含め500万円の予算であり、このための募金をお願いいたしましたところ、平成21年9月末現在、402名のご協力をいただき、計291万4千5百円を送金いただきました。

その方々には深く感謝し、厚く御礼申し上げます。しかし、総額500万円には残念ながら届きません。お忘れになった方も多いかと存じますので、再度募金をお願いいたします。

これは申し上げにくく、心苦しいのですが、ぜひともご協力をお願い申し上げます。

閉校式と記念碑除幕式
閉校式は平成23年3月5日（土）に、柿の木坂にあるパシモン大ホールで行う予定になっております。式典は附属高校が主催

で行われ、祝宴は、父母会と同窓会の共催という形になります。これは会費制になると思えます。現在は主に父母会が計画を立てており、9月19日（土）に初めて学校側、父母会、同窓会の三者の会合を持ちました。今後は父母会案を素案に検討することになっており、同窓会の窓口は4期の野口貞義氏にお願いしております。

閉校式に伴う記念誌の発行について

学校も父母会も記念誌を発行することは予定しております。同窓会も参画しますが、内容は今後検討することになります。

卒業生の「想い出」などは必ずあるでしょう。投稿の詳細は何らかの方法で、できるだけ早くお知らせするようにいたします。

府立高等学校創立80周年記念式典について
本年9月19日、パシモン小ホールで80周年記念式典、懇親会などが行われました。

午前10時から総会、続いて式典が行われ、府立高等学校同窓会楠川絢一理事長の式辞、来賓の中から都立大学附属高校・東京都立桜修館中等教育学校の須藤勝校長と、成蹊会高等学校（旧制）同窓会岩崎洋一郎会長の祝辞をいただきました。

須藤勝校長は、歴史と伝統のある府立高校から戦後の学制改革によりそれを受け継いだ東京都立大学附属高等学校の良さを、更にその校旗・校章・校歌を継承した桜修館に触れ、桜修館の将来の夢について語られました。桜修館は、府立と附属としての流れの中に生まれ、良い伝統を受け継いでいるとの意欲的な祝辞でした。

再度募金のお願い

また、特筆すべきは、各学年から選ばれた附属と桜修館の生徒約30名も加わり、府立高校OB約160名による校歌の合唱でした。

90歳台の高齢者も多く、14・5歳の桜修館の生徒も同じフロアで歌ったこと

午後5時頃になると、計291万4千5百円を送金いただきました。

その方々には深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

午後10時から総会、続いて式典が行われ、府立高等学校同窓会楠川絢一理事長の式辞、来賓の中から都立大学附属高校・東京都立桜修館中等教育学校の須藤勝校長と、成蹊会高等学校（旧制）同窓会岩崎洋一郎会長の祝辞をいただきました。



在校生とともに校歌合唱／写真提供：八雲会

今後の同窓会活動など

閉校後、同窓会はどのような形をとるのか。桜修館と連がってゆくのか。これは桜修館卒業生の希望や学校の方針などもあり、今後の問題となります。

単独でも活動を行ってゆくのか。これには費用の問題もあり、毎年支援金を必要とするでしょう。いずれにいたしましても、次の理事会・評議員会で検討し、総会に諮り、桜修館の1期生が卒業する平成24年3月頃までには結論を出す必要があるでしょう。

皆様方のご意見を伺いたいと思っております。

「通信」欄、「ご依頼人」欄に、住所、氏名、卒業期（封筒の氏名右下に記載を）記入の上、お近くの郵便局からお振り込みください。

再度募金のお願い

募金の方法：一口五万円（何口でも結構です）

＊ご都合によっては一口五千円にはこだわりませんので、多くの方のご協力をお願いいたします。

送金方法：同封の「払込取扱票」の「金額」欄

応募の締め切り日：平成22年3月31日

「通信」欄、「ご依頼人」欄に、住所、氏名、卒業期（封筒の氏名右下に記載を）記入の上、お近くの郵便局からお振り込みください。

送金方法：同封の「払込取扱票」の「金額」欄

応募の締め切り日：平成22年3月31日

「通信」欄、「ご依頼人」欄に、住所、氏名、卒業期（封筒の氏名右下に記載を）記入の上、お近くの郵便局からお振り込みください。

送金方法：同封の「払込取扱票」の「金額」欄

応募の締め切り日：平成22年3月31日

都立大学附属高等学校精神の 永遠性を完成させる

東京都立大学附属高等学校
校長 須藤 勝



同窓会の皆様には、日頃より本校の教育に対し、温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございますことと深く感謝申し上げます次第である。

現在、都立大学附属高等学校（以下「都大附」と表記する）には、2年生と3年生で320名ほどの生徒が在籍しており、同じ校舎内に桜修館中等教育学校（以下「桜修館」と表す）の1年生から

4年生までの640名ほどの生徒と同居する形で約1000名近い生徒が、お互いに協力しながら学校生活を送っている。都大附の生徒は根が真面目で気持ちが良い。反面、荒削りで十分に磨かれていない者が多く見受けられる。その分、今後の伸びしろが大きく、将来楽しみな人材が揃っているように感じる。

とはいえ、都大附3年生は受験生活の最中であり、将来性などと暢気なことばかりも言ってはならない。学校としても今年の夏期講習では、昨年よりも講座内容を充実させた。また、在籍者の9割が受験するセンター試験を見据え、12月の時間割での工夫を考えている。「昨年度以上の進学実績」を合言葉に、学校一丸となつて取り組む。生徒も自分の希望の大学を定め、いま必死に頑張っている。きつとよい成果が残せると期待している。

さて、今の2年生は都大附最後の学年となる。現在、来年度の授業計画の立て直しを検討しており、必ず有終の美が飾れるよう全力を尽くす。「自由と自治」の校訓のもと、高校生活を謳歌した諸君が、最後に希望進路を勝ち取り、威風堂々と巣立っていく姿を見たいものである。

ある。それが都大附精神の完成形であると確信している。

他の中高一貫校とは事情が異なり、本校は母体校の校名を残すことができなかつたが、その分、母

ますます士気も高まる

東京都立大学附属高等学校 副校長 笹 のぶえ

一、学校の現状

4月に、都立三田高校から、須藤 勝校長先生が着任されました。都大附を「桜修館を引っ張る機関車」に譬え、教職員

の士気を鼓舞されました。平成22年度末で閉校になる本校は、生徒数二つの学年で320余人、教員も20余人と規模は小さくなりりましたが、かえって士気が高まっています。6月は、弓道部男女が、

体校の優れた精神を受け継ぐことが使命であると考えている。同窓生諸氏には、その趣旨をご理解頂き、今後、桜修館も含め末永くご支援を賜りたく希うばかりである。

のため、日々の教育活動を堅実に展開しています。

二、教員の異動状況

- 転出（氏名、担当、転出先）
 - 石坂康倫（統括校長）
 - 日比谷高等学校
 - 池田克則（保健体育）
 - 調布北高等学校
 - 勝浦スミ子（国語）
 - 文京高等学校
 - 土岐統子（国語）
 - 荻窪高等学校（定）
 - 吉永直美（国語）
 - 桜修館中等教育学校
 - 篠本隆康（公民）
 - 紅葉川高等学校
 - 望月典子（数学）
 - 第一商業高等学校
- 宮里康郎（地学）
 - 第一商業高等学校
- 興枳 実（保健体育）
 - 桜修館中等教育学校
- 藤井かね子（保健体育）
 - 退職
- 宮澤沙友里（英語）
 - 砂川高等学校
- 高橋洋江（家庭）
 - 桜修館中等教育学校
- 戸塚文彦（地理歴史）
 - 退職
- 星野佳正（進路）
 - 退職
- 転入（氏名、担当、前任校）
 - 須藤 勝（統括校長）
 - 三田高等学校
 - 丸井誠一郎（地学）
 - 上野高等学校

旧校舎最後の遺構撤去へ

1932年（昭和8年）4月、府立高等学校の新校舎が落成し、府立一中（現・日比谷高校）から移転した当時の遺構として、学校の西側に残るコンクリートの塀が、今年度中に取り壊されることになりました。

写真でご覧のとおり、この塀には亀裂が入り危険でもあるため取り壊しもやむをえません。旧正門跡に校門に続く形で塀の一部が保存されており、その優美な姿を偲ぶことができます。



旧正門跡に保存されている門柱と塀背後は記念碑「燦燦」（野上公平・作）



西側に残る遺構



みんなでつくりあげる それが記念祭だ 大貫 安 (59期)

今年の記念祭は、9月12・13日に開催されました。

観客として参加する初めての記念祭は、とても新鮮でした。

校舎に入ると、すぐあちこちから元気な声が聞こえてきたことには驚きました。

都大附は一学年少なくなつてしまい、更に桜修館はクラス学級閉鎖になっていて、少し活気がなくなつてしまふかなと正直心配していましたが、校内を歩きまわる皆の笑顔を見たら、そんな心配はすぐなくなりました。

とにかく誰を見ても、とても楽しそうでした。そして、皆が一生懸命でした。

今回は、都大附の生徒が幹部長をする最後の記念祭。学校の過渡期であり、難しい問題に直面することも多々あったと思います。しかし、そのような事を感じさせることも無く、お祭りを純粋に楽しもうと頑張るその姿に、後輩たちの成長を感じました。

そのひたむきさを、桜修館の皆さんにも是非伝えてほしいものです。

第61回記念祭、とても楽しかったです。後輩の皆さんお疲れ様。



賑やかな立て看板コンテスト

現在の弓道部と関東大会出場

東京都立大学附属高等学校
弓道部 主将 中田裕一朗

私たち弓道部は普段校内の弓道場で、3人や5人で順番に4本ずつ矢を引く「立ち稽古」や、他人との間合いと関係なく弓を引いて型の改善などをする「射込み」をしています。休日は強豪校と練習試合を行い、切磋琢磨を続けています。夏には合同合宿に参加し、合宿でしかできない、充実した厳しい稽古をしました。そうした稽古の成果も出ており、昨年の夏に東

都弓道個人選手権大会で優勝し、関東個人弓道選手権大会(本選)に2名出場しました。さらに春の東京都弓道関東大会団体予選で第3位となり、山梨で行われた関東高等学校弓道大会へ出場しました。

春の関東大会団体男子都予選は選手も応援も、弓道部全員が一丸となりました。本大会出場を狙っていましたが、選手は応援の部員の気持ちに込めるかのように的中を伸ばし、第3位となり関東大会東京都代表権を獲得しました。そして1週間後に行われた女子都予選でも第3位となり、代表権を獲得しアベック出場となりました。本大会に嬉しかったです。

本戦までの1か月、稽古を重ねた上で本大会に臨みました。予選は12射を2回、計24射の合計的中数で戦います。上位8チームに残るには16中がラインでしたが、予選1



回目はまさかの12射2中。予選2回目での逆転は不可能でしたが、顧問の先生やコーチの「今までやってきた弓をみせてみる」という言葉を聞いて試合に臨みました。予選2回目は、予選1回目よりもよい弓を引くことができました。この大会では結果を残すことはできませんでしたが、夢は後輩に託したいと思っています。

私たちがめざしたものの

東京都立大学附属高等学校 弓道部 部長 和田理加子

ここまで私たち弓道部が成長できたのは、学校をはじめ、周囲の方々から頂いた多くの応援やご協力のおかげだと思います。また、同窓会の皆様には立派な垂れ幕を製作して頂きました。部員一同、感謝しております。あの垂れ幕は後輩が、きつとまた掲げてくれると信じています。ありがとうございます。

ここまで私たち弓道部が成長できたのは、学校が成長できたのは、学校をはじめ、周囲の方々から頂いた多くの応援やご協力のおかげだと思います。また、同窓会の皆様には立派な垂れ幕を製作して頂きました。部員一同、感謝しております。あの垂れ幕は後輩が、きつとまた掲げてくれると信じています。ありがとうございます。

達成できたかどうかはわかりませんが、きつとこの目標は今後も継がれていくと思います。そして、私たちが変わるキッカケとなった顧問、化学担当の岩淵寛先生。先生には部員一同、本当に感謝しています。先生のおかげで私たちはここまでくることができました。この場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございます。

2009年6月6日、目標であった関東高等学校弓道大会への出場を果たすことができました。1年前の2008年4月に関東大会本大会へ出場するという目標を立ててから、毎日その目標を胸に稽古を重ねてきました。それまでの弓道部は本大会どころか、東京都の各予選でも、決勝トーナメントへ駒を進めることがほとんどできず、関東大会本大会の出場とは、全くもって程遠い部活でした。目標を掲げてからの1年半、私たちは主に2つのことを軸にして活動してきました。一つめは、勝ちにこだ

わること。練習試合であろうと、小さな大会であろうと、大きな大会であろうと、いかなる試合であっても結果を残すことにこだわりました。勝ちにこだわることこそ、試合の内容が充実し、自分自身の新たな目標や課題、チーム

練習試合であろうと、小さな大会であろうと、大きな大会であろうと、いかなる試合であっても結果を残すことにこだわりました。勝ちにこだわることこそ、試合の内容が充実し、自分自身の新たな目標や課題、チーム

達成できたかどうかはわかりませんが、きつとこの目標は今後も継がれていくと思います。そして、私たちが変わるキッカケとなった顧問、化学担当の岩淵寛先生。先生には部員一同、本当に感謝しています。先生のおかげで私たちはここまでくることができました。この場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございます。



同窓会寄贈の垂れ幕

特集 思い出の部活動 連載:Vol.3

原稿募集:「思い出の部活動」を毎号連載しますので、部・サークル・同好会の歴史・現状などの原稿を募集します。
 締め切り:毎年9月15日、本文:400字程度 送り先:〒158-0084 世田谷区東玉川2-3-15 野口貞義方 同窓会報編集室

都立の花「バレエ研究会」

(バレエ研) 江村満枝 (4期)

四期女子のメンバーで、齊先生のご協力を得て、大学のダンス研究会(社交ダンス)の部屋を借りて部を創設。

初年の記念祭で、バレエ研の初舞台はロシヤ民族舞踊を発表。二年目は新人も入り、美術部製作の舞台装置も設置され、クルミ割り人形組曲を上演した。

上演に際しては上級生のピアノの柳川さん(?)や「音智」のリーダーに聴音でロシヤ民謡の楽譜を作って頂いたり、築



小笠原校長を囲んで(1年生の時)前列左が齊先生 撮影:故・斎間 亨(1期)

地から重い器具を手で運んで照らして頂いた記念祭照明部の方々、装置を引き受けて下さった美術部の方、音響の放研の方々等多方面の協力を得て実現した舞台でした。

三年目にはけいこ場を失いレッスンを続行出来ず舞台は断念しましたが、その頃やっと日本にも外国のバレエ団が来日するようになり、機研の田中(誠一郎)さんが貴重なバレエ公演の舞台写真を沢山写されたので機研の方々も記念祭でその写真展をさ

せて頂きました。「都立の校庭にもついに花が咲いた」と小笠原校長先生も喜んで下さった部でしたが、けいこ場を使用出来なくなり、下級生への引継ぎも出来ず、四期卒業と共に残念ながら解散となりました。

30期バスケットボール部の思い出

星野祐史 (30期)

30期同窓会幹事の方から原稿依頼を受けて気が付いたが、卒業して来年で30年になることに驚いた。

たまたま、この原稿依頼を受ける少し前に、在校中コーチをして下さった27期のKさんのお父様のご不幸があり、その通夜

に集まった女子バスケット顧問の松山先生、29期の先輩、30期の同期、31期の後輩と話す機会があり、都高バスケット時代のいろいろなエピソードを思い出した。



30期バスケットボール部2年生の春

振り返れば、練習が辛いと苦もあつたし、男子バスケット顧問の安食先生やコーチに迷惑やご心配をおかけしたこともあつたが、バスケットのお蔭でとても楽しい都高生活を送ることができたことを感謝している。

思い出はたくさん浮かんで来る。毎日の昼休みみぎに学校の周りを2周ランニング。走った後、汗だらだらのまま、大学の食堂へ飛び込んで行って、チェリオを飲みながら大盛りのコロッケカレーを喫

茶で食べるのが日課であった。年に一回、OBとOGが集まって現役とゲームを行う「籠球祭」には、期が一新台のOG・OBの方々も来られたが、終わった後の体育館でのジュニアの宴会は楽しかった。宴会は30期が誇れるものだった。と

いうか、誇れるプレーがない私が誇れるものだった。これは宴会芸を競いあつた同期も同じ気持ちであろう。

異様な壁

神保大輔 (58期)

現在都大附男子バスケット部は、高校2年生・中等4年生・中等3年生が合同で練習しています。中等3年生に関しては秋の新人戦には出ることはできませんが、来年からは同じチームとしてやっていく上で、上級生にとっても下級生にとってもいい刺激があることでしょう。

ただ私自身の感覚としては、当初チームワークという点で問題があると思いましたが、何故ならば「都大附」と「桜修館」は「違う学校」という意識



卒業後、同期や先生、コーチのみんなと会う機会もなくなってしまうが、この通信をきっかけに集まったら嬉しいなと思う。

が生徒たちには確実に根付いているからです。少なくとも私の目には、先輩方と私の代、そして後輩達との関係とは異なる、何か異様な壁が存在しているように思えました。しかしし合宿を終え、数々の練習または練習試合をこなし、コーチの私や顧問の先生のフォローもありましたが、彼らは自らの力でその壁を限りなく近いものにしてきたと思います。

そして現在は秋の新人戦に向けてひたすら練習の日々です。今大会から支部編成が行われ都大附は今まで強豪揃いだっただけ2支部から第1支部へ移動となります。正直に言ってしまうと、チャンスです(笑)。学校編成や支部編成、はたまた政権交代など、この様々な変革を遂げている世の中でその変化を乗り越え、変わらぬ汗を流し続けている彼らを私はまだまだ見守っていきたいと思います。

盛んな同期会・クラス会・同好会レポート

二期同期会

日時：平成21年11月5日

(第1木曜日)

午後1時～3時

二次会：3時30分より

会場：めぐろキャンパス

「シエ松尾」

二次会「ジャスミン」

(都立大学駅付近)

参加者：44名

毎年11月第1木曜日午後1時～3時に行っています。卒業57年目の会で、恩師綱島豊作先生他2名の物故者への黙祷。全員



にアンケートを出し、出席者44名。欠席48名。返事なし14名。今後の連絡不要27名でした。

内野滋雄同窓会理事長より、今後の同窓会についてのお話の後、交友を深め、なつかしい、いちよう並木をバックに記念写真。来年の再会を約して解散二次会へ。
幹事は平岩、立石、小林、竹内、松根、柴山でした。
(柴山雄一・記)

第6期卒同期会

日時：平成21年4月18日

(土曜日)

午後1時～4時

会場：サッポロライオン

新宿センタービル店

参加者：40名

今年の同期会は新宿センタービル内の「サッポロ」で、4月18日(土)40名の仲間達が集まり無事開催できました。
残念ながら大嶋君の計報が報告され、会の冒頭に黙祷を捧げました。
(戸井啓雄・記)



今回の会場は、会費を抑えながらも新宿という便利な場所、多くの方が満足しました。

おしゃべりは弾み、パンフルートと、ソプラノに感心し、3時間を楽しく過ごしました。
出席者に配った名簿の近況欄は、70歳を超えた私達の生き様が手に取るように分かります。

東京都立大学附属高等学校同窓会 平成20年度収支計算書 平成20年10月1日～平成21年9月30日(単位:円)

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
記念碑募金(402名)	2,914,500	会報費(註1)	1,523,426
名簿売上(@2,500円1部)	2,500	印刷費(註2)	196,934
第59期生会費(月120円×12ヶ月×3年×160名)	691,200	通信費	11,720
預金利息:さわやか信金(普通)	926	評議員会議費	61,888
みずほ銀行(定期)	19,715	交通費	1,380
小計	3,628,841	事務用品費	640
前期繰越金	9,783,158	手数料	3,990
		慶弔費	10,000
		倉庫料(註3)	63,000
		寄付金(註4)	50,000
		記念碑費(註5)	2,000,000
		募金振込手数料	45,800
		小計	3,968,778
収入の部合計	13,411,999	次期繰越金	9,443,221
		支出の部合計	13,411,999

註1: 発送費751,840円(9,398部×80円)を含む 註2: 平成21年4月発行の名簿補遺印刷代200部156,881円を含む
註3: 名簿保管料 註4: 弓道部関東大会出場垂れ幕代の一部補助 註5: 野上公平氏内金

財産目録 (平成21年9月30日現在)

科目(銀行、郵便貯金)	当期末(平成21年9月30日)	前期末(平成20年9月30日)	増減
さわやか信用金庫(普通)	1,036,779	2,267,631	-1,230,852
みずほ銀行(定期)	7,060,742	7,041,027	19,715
ゆうちょ銀行(振込口座)	1,345,700	474,500	871,200
合計	9,443,221	9,783,158	-339,937

平成20年度名簿在庫	957,500	1,377,500	-420,000
内訳	奥村印刷383部	奥村印刷549部+野口2部=551部	*差し引き168部減

*168部中1部は売り上げ、167部は第59期生と担任教諭等へ贈呈
監査報告: 提出された平成20年度原簿等を精査し、収支計算書、並びに財産目録に誤りのないことを確認します。
監事代表 新井正己 ㊞

第九期同期会・立食パーティー

日時：平成21年4月1日

(水曜日)

会場：神田一ツ橋

「如水会館」

参加者：52名

卒業五十周年の節目の年。担任の喜多・早乙女両先生、遠く四国や関西からの参加者、卒業以来初めて顔を見せた人、同期に四組あるカップルのうち出席の二組その他、名司会者のA君に指名された参加者が次々にスピーチに持ち味を發揮しました。

また、同期の仲間を活動しているゴルフの会、山歩きの会からの報告と勧誘もあり、校歌斉唱による中締めの後、引き続きの二次会では、飛び入りで達者な芸を披露したNさんが大喝采を浴びるなど(写真)愉快且つ都立同期の絆の強さとその有り難さを再認識した、充実の一夕でした。

(朱牟田静雄・記)



Nさんが演ずる「南京玉簾」

第27回八雲展

今年の八雲展は、府立高等学校創立八十周年記念として盛大に開催されました。

恩師松岡太和先生のデッサンをはじめとして、先輩会員方の遺作も並び、なつかしい作品にふれることが出来て好評でした。毎年この会報を読まれて連絡を下さる方々を含めて、千名前後の来場者を迎えます。

来年は第28回展となり、ここまで続けてこられた

のも皆様のお励ましのお蔭と、会員一同感謝いたしております。と同時に今年より来年」と質の向上を目指してそれぞれに精進します。これからもよろしくお願いいたします。

八雲展事務局

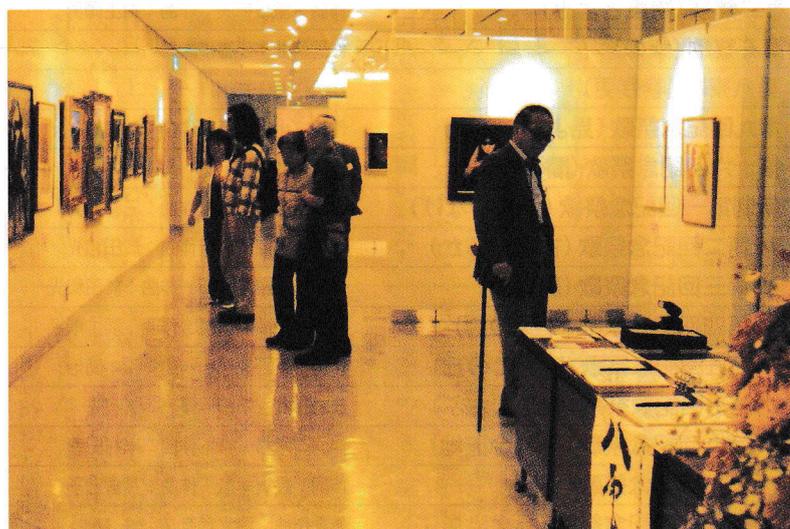
杉本真理子(7期)

〒203-0032

東久留米市前沢

5-1-1504

☎042-472-1015



来場者で賑わう八雲展の会場「O美術館」

機研OBの親睦会2009

日時：平成21年10月17日

(土曜日)

午後2時30分より

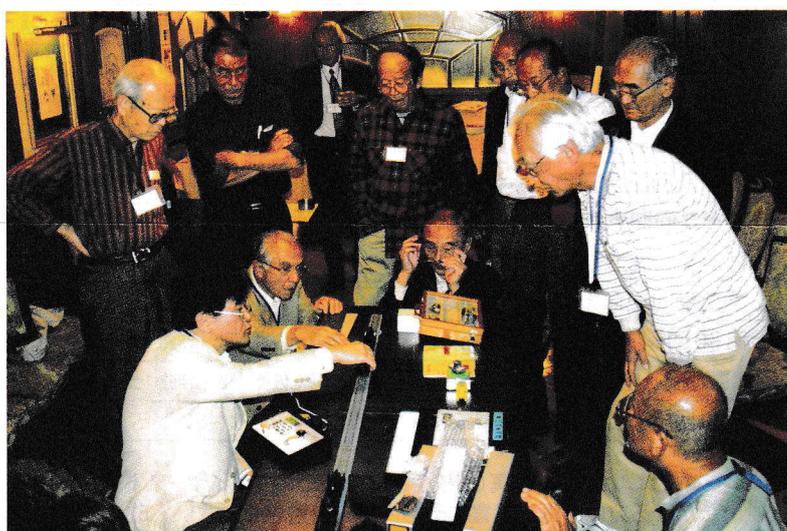
会場：銀座クルーズ・クルーズ

参加者：24名

旧制府立高校の「鉄道研究会」を引き継ぎ、新制になってからは機械技術全般を対象を広げ、会の名称も「機械技術研究会(略称：機研)」と改めました。残念ながら現在は廃部になってしまいました。

しかし、毎年鉄道記念日直近の土曜日にOBが集まり親睦会を開催し、今年もはるばるブラジルから参加された鈴木健太郎さん(3期)を含む1期から22期までの24名が集まり、それぞれ個性溢れる趣味を語り、DVDの上映、鉄道模型の披露など、充実した2時間を過ごしました。

(野口貞義・記)



工夫を凝らした鉄道模型の秀作に見入る機研OB

同窓会の
ウェブサイト
来年4月1日
オープン!

かねてより同窓会会員より要望があった同窓会のウェブサイトを、「ホームページ開設委員会」川田秀文委員長(14期)により準備が整い、来年の4月1日、東京都立大学附属高等学校のホームページにリンクする形で開設することになりました。内容は左記を予定していますのでご期待ください。

- 1 同窓会の紹介
- 2 個人情報保護について
- 3 同窓会理事長挨拶
- 4 同窓会会則
- 5 同窓会事業予定
(総会や理事・監事・評議員会議の開催案内、閉校へ向けての事業や行事の案内、記念碑建立基金の募金と応募状況、記念祭の予告、会報の発行等)
- 6 母校の近況
- 7 クラス会、同期会、同好会の案内(予告原稿の募集)
- 8 会員の住所変更、計報等

府立高等学校・都立大学附属高等学校 「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集」DVD収録に 参加して歌いたい人募集！

母校の閉校に当り、府立高等学校から都立大学附属高等学校へと歌い継がれてきた、校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌を、歌と映像に収録し、同窓会会員に頒布するとともに、母校の「メモリアルルーム(思い出の部屋)」に永久保存することを目的に、DVDを制作するという案を、有志が理事・監事・評議員会議に提案したところ承認され、下記のとおり収録し発行することとなりました。

一人でも多くの歌声を収録したいので、奮ってご参加ください。

- 1、名称：**府立高等学校・都立大学附属高等学校校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集(仮称)
- 2、発行：**東京都立大学附属高等学校同窓会
- 3、協力：**音楽知識研究会OB、吹奏楽部
- 4、収録日と会場：**平成22年5月22日(土) 午前10時より母校体育館
- 5、収録予定の曲：**昭和62年版及び平成17年版名簿の巻末掲載の校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌31曲と沼津寮寮歌の内15曲(約30分)程度(右記一覧表参照)
- 6、頒布価格：**1部1,000円(送料・全歌詞掲載の小冊子を含む)
- 7、収録への参加方法：**同封葉書に歌いたい曲(何曲でも)の番号を○で囲み、氏名、住所、卒業期・クラス(封筒宛名の右下に記載)を書き、50円切手を貼って、**平成22年1月31日まで**にお送りください。歌いたい曲の多い順に15曲程度を決め、詳細を申込者に連絡します。

1 校歌(嗚呼西山の雲はれて)	作詞：蔵田延男 作曲：実吉捷郎
2 学生歌(青春という)	作詞：山下 肇 作曲：永田 丕
3 学生歌(嗚呼烈誠)	作詞作曲：井川一之
4 文甲歌(霊峰富士)	作詞：村上和夫 作曲：椿 実
5 文乙歌(いざ友)	
6 理乙歌(流るゝ月日)	
7 第一寮歌(陽炎もゆる)	作詞：上岡正義 作曲：伊藤 醇
8 第二寮歌(朔風とよみ)	作詞：室根郁夫 作曲：村上輝男
9 第五寮歌(紫の)	作詞作曲：三富隆太郎
10 第八寮歌(春残更)	作詞作曲：井川洋一
11 第九回記念祭歌(見よやローマ)	作詞：小坂松彦 作曲：川口京村
12 第十六回記念祭歌(闇の夜に)	作詞作曲：椿 実
13 新制第一回記念祭歌(手をつなげ)	作詞：政石 浩 作曲：三善 晃
14 // 第二回記念祭歌(古きいらか)	作詞：粟屋 忠 作曲：於田和光
15 // 第三回記念祭歌(仄青く)	作詞：小中陽太郎 作曲：於田和光
16 // 第四回記念祭歌(干戈の響)	作詞：伊藤酒造雄 作曲：羽生孝平
17 // 第五回記念祭歌(嗚呼この丘)	作詞：平野克己 作曲：松本尚治
18 // 第七回記念祭歌(吹きすさぶ)	作詞作曲：中田 優
19 // 第九回記念祭歌(それ今天地)	作詞：木村 修 作曲：米村紀幸
20 // 第十回記念祭歌「秋」	作詞：長沢孝広 作曲：長倉宏子
21 // 第十一回記念祭歌(見よ秋風に)	作詞作曲：清水孝彦
22 // 第十二回記念祭歌(柿熟るる丘)	作詞作曲：高木 洪
23 // 第十三回記念祭歌(夕暮れの陽に)	作詞：伊藤 滋 作曲：丘藤孝雄
24 // 第十五回記念祭歌(春の日の)	作詞：佐藤秋子 作曲：古庄紋十郎
25 // 第十六回記念祭歌(雄々しき空)	作詞：住田、中村、片岡 作曲：古庄紋十郎
26 // 第十七回記念祭歌(晩夏に集う)	作詞：前田 保 作曲：大築 準
27 // 第十八回記念祭歌「涼秋新た…」	作詞作曲：佐藤文行
28 // 第十八回記念祭歌「白熱の…」	作詞：白井令子 作曲：栗山宜己、井上句二
29 // 第十九回記念祭歌(桐のひとひら)	作詞：徳永幸雄 作曲：岩田雅行
30 // 第二十回記念祭歌(西の空は)	
31 // 第30回記念祭歌(起ち昂がれ)	作詞：山本 敦 作曲：岩永純子
32 沼津寮寮歌(霊峰富士を)	作詞：佐藤 敬 作曲：土岐和子
その他(第30回記念祭以降の記念祭歌等)	

●収録日に収録する映像の所要所に挿入するのにふさわしい、古い写真(旧校舎、記念祭でのファイヤーストーム等)や、映像(8mm、ビデオ等)をお持ちでご提供いただける方は、返信葉書にその内容をお書きください。改めてご依頼状をお送りし提供のお願いを申し上げます。

原稿募集

同期会、クラス会、同好会のレポートを募集します。

原稿は、会の名称、開催日時、会場、参加人数、内容の説明、会を象徴する写真一枚を添付

次号原稿締切日

平成22年9月30日

原稿の送り先

〒15810084

世田谷区東玉川2-3-15

野口貞義 方

同窓会会報編集室

FAX 031372016007

同窓会への連絡は

住所の変更などの同窓会への連絡は、郵便で左記までお送りください。

〒15210023

目黒区八雲1-1-2

東京都立大学

附属高等学校同窓会

編集委員

内野滋雄(1期)

野口貞義(4期)

徳井 巖(10期)

故・勝村英美子(17期)

瀧野日出雄(30期)

新美勝太(58期)

山田健一朗(58期)